

普及活動情勢報告（平成28年10月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

J Aとさしニラ部会が点検シートの取り組みを始めました。

～エコシステム栽培の取り組みに向けて～

チェック項目	実施状況
1. 本づくの進行状況（本づく日、本づく回数、本づく回数と本づく日との関係）	
2. 本づくの回数（本づく回数、本づく回数と本づく日との関係）	
3. 本づくの回数（本づく回数、本づく回数と本づく日との関係）	
4. 本づくの回数（本づく回数、本づく回数と本づく日との関係）	

J Aとさしニラ部会版点検シート

9月30日、J Aとさしニラ部会総会に先立って、農業改良普及課は、「J Aとさしニラ部会版こうち環境・安全・安心点検シート」のチェック項目を読み上げ、各自でこの一年を振り返って点検してもらいました。来年度は、今回チェックしてもらった点検シートを見返し、一年でどう変わったか点検することになりました。

こうした取り組みを契機に、園芸連のエコシステム栽培に取り組んで行こうという気運も生まれました。

農業改良普及課では、現地検討会や目慣らし会を活かして、エコシステム栽培の要件を満たすよう改善策等を提案し、後押しします。

地域の作物への関心が高まる。

～いの町出前授業を実施～



ショウガの大きさに興味津津

10月5日から10月18日にかけて、いの町主催による、小学校3年生を対象にした出前授業が、4校（ショウガ2校、ナシ2校）で開催されました。

農業改良普及課は、生産者やJ Aと協力し、作物の特徴や生産状況の説明や、実際に作物に触れてもらうため、重量（ショウガ）・糖度（ナシ）の測定等を指導しました。

ともに身近な地域で生産されている野菜・果樹ですが、日常では、あまり意識していないこともあり、児童は、興味深く話を聞き入り、香りや食味を楽しんでいました。

農業改良普及課は、引き続きこうした出前授業等の機会を通じて農業への関心を高め、次世代の農業者育成を図っていきます。

炭酸ガス施用における現地実証の開始。

～ピーマンの収量アップを目指して～



実証ほでの生育調査

農業改良普及課は、10月から炭酸ガス施用における実証試験の調査を、2か所で開始しました。これまでに調査を行ってきた開花花房高、葉長、開花節の茎径、開花数、着果数等により生育診断を行っていきます。さらに整枝の状況や気象データを付け合わせ、収量アップに繋がる整枝管理方法や、炭酸ガス施用方法を探っていきます。

今作では炭酸ガスの局所施用、日射比例かん水、白マルチなどにおける収量性も検討しており、実証ほの結果を活用して環境制御技術の導入・拡大を呼び掛けていきます。

農業研修生の勉強会を開催。
～いの町農業公社～



後作の準備をする研修生

10月11日、公益財団法人いの町農業公社（いの町吾北地区）の2名の研修生及び新規就農者1名を対象に、公社で勉強会を開催しました。今年度から毎月公社の研修状況を振り返ると共に、座学や視察研修に取り組むことにしています。

勉強会では、農業改良普及課が講師を務め、農薬の基礎知識、制度資金について、その都度、理解の状況を確認しながら説明をしました。

座学終了後は、公社内のほ場でピーマン後のナバナを栽培する準備を行い、次回は、農業振興センターで土壌診断について勉強会を行います。